

ぶらり 諏訪塾 ⑨ 江戸で人気「親和染」は諏訪にも

小坂の観音院

中国の古い時代の書体篆書(せんす)を12歳の頃から学んだ三井親和(1700~1782年)の書は総入りの「江戸名所図会」に深川親和の名が入った幟(のぼり)立つ神社の祭が描かれ、洒落た文字は「親和染」と呼ばれました。江戸で大流行し、当時民衆は、着物や手ぬぐいに至るまで「親和染」を求め、親和の家には書を求める人が列を成したそうですから、その人気ぶりが伺えます。

当然その人気は諏訪の地にも聞こえ、書を求める者は三井家の縁故を通して手に入れていたようです。

神社の大幟は諏訪市小和田の八剱神社に明和7(1770)年、71歳に揮毫し、生地を藍色、文字を白抜きした粋な物。諏訪大社下

社社宮は安永5年(1776)年の幟です。各社とも奉納から250年を過ぎることから幾度か作り替えられていると思われます。

岡谷市湊小坂の観音院の観音堂には筆が踊っているかのような「観世音」の扁額が掛かっています。微笑んでいるようにも見え、ニクで遊び心さえ感じます。

文政7(1824)年、甲申歳三月吉日と象頭山・秋葉山・妙儀山を並べ下部に大きく大権現、その横に東都「三井親」と刻んだ石碑が諏訪市福島の御頭御社宮司社の境内に建っています。「□」の部分は石の台座にはめ込まれ確認できませんが、「諏訪史概説」の年表に「三井親和の子親孝、福島村の為に碑文を書す」と記載があり、父同様書家であったことが



分かります。江戸で「親和染」の旋風を吹かせた書家の父子は諏訪ゆかりの書家なのです。 〓 随時掲載 詳しい場所などの問い合わせは 諏訪塾事務局(電話070・8323・2107)へ。

- ぶらり 諏訪塾の冊子は
- ・ 諏訪市観光案内所 (JR上諏訪駅内)
 - ・ ねすくらん劇団いすみ屋 (諏訪市諏訪)
 - ・ 書店「言事堂」 (諏訪市末広)
 - ・ すわ大書情報センター (諏訪市博物館内)
 - ・ 諏訪書店(通販のみ) 57・0997)
 - ・ 柏屋カフエ&キヤラー (諏訪市中洲神宮寺) で販売中です。



小坂観音院の観音堂に掛かる「観世音」の扁額



今回の筆者
涌井みち子さん
 立川流建築彫刻研究者でスポーツインストラクターとしても活動しています